

手織三河 木綿工房

手織場

「手仕事のぬくもりを
伝えていきたい」



「ガチャン・ガチャン」…
ひとむかし前までは、市
内のあちこちで織物を織る
音が聞こえていました。古
くから、三河地方の織物は三
河木綿・三河縞」の名前で広
く普及し、素朴で丈夫な生
活の布として日本全国で愛
用されてきました。

この伝統的な三河木綿の
復元と、繊維産地のシンボ
ルづくりを目指す「手織三
河木綿工房 手織場」も、今
年で3年目を迎えました。
約1年間にわたり作業を続
けてきた3期生のスタッフ
6人の活動を紹介します。

棉の栽培

5月に種まきをし、8月ごろには
黄色い花が咲きます。やがて「コ
ットンボール」と呼ばれる緑色の
実ができ、秋になると実がはじけ
て白い繊維を収穫します。

三河地方古来の地棉は、下向き
に棉がつくので、収穫は見落とさ
ないようにのぞき込みながら探さ
なければいけません。たくさん付
いている日は大変な作業でした。
でも、丹精込めた棉を採るのはう
れしいもので、ぬいぐるみの毛の
ような棉は本当にかわいらしく、
毎日が楽しみでした。

(スタッフ大竹里佳さん)



■ 棉の実

糸紡ぎ

糸車を使って回転を加えながら、
よりこから出る綿をよって糸にし
ます。

糸の太さや強さは、両手の動き
のバランスと左手の指先の感覚で
決まります。その日の感覚や天気
などで微妙に変わる糸に苦労しな
がら、毎日糸を紡ぎました。思う
ような糸ができず、手を止める時
もありました。昔の人の仕事ぶり
を想像し、早くその域に近づける
ように頑張っています。

糸の太さや強さは、両手の動き
のバランスと左手の指先の感覚で
決まります。その日の感覚や天気
などで微妙に変わる糸に苦労しな
がら、毎日糸を紡ぎました。思う
ような糸ができず、手を止める時
もありました。昔の人の仕事ぶり
を想像し、早くその域に近づける
ように頑張っています。

(スタッフ石黒日登美さん)



■ 糸紡ぎ

草木染め

野山で採ってきた草や木を煮出し
て色を染めます。

草木染めをやっていて感動した
ことは、自分の周りにある、雑草と
ばかり思っていた草花がとてもき
れいな色をくれるということです。